

山城



中世の山城・鹿背山城跡

(木津川市鹿背山)



標高1355mの鹿背山城・主郭跡。木津川の流れや山城地域のま
ちが一望できる(木津川市鹿背山)

山あいを通り、西へ流れてきた木津川が山城盆地に入ると北向きに大きくカーブし、流れが緩やかになる。一帯は古代には泉津、後に木津と呼ばれるようになった。津は、港のこと。奈良に近い物流拠点だった。旧木津小鹿背山分校から、案内板に従って山道を歩く。10分弱でたどり着く標高1355mの頂上に千平方メートルほど、人工的に平らになった部分がある。中世の山城「鹿背山城」の主郭跡だ。眼下には木津の街。府南部のほぼ全域を見渡せる。

鹿背山城は興福寺が築き、戦国武将の松永久秀が再整備したとされる。城跡の研究は1978年に発足した市民団体「木津の文化財と緑を守る会」会長の岩井照芳さん(69)と木津川市木津町Ⅱらに在野の研究者や郷土史家がリードしてきた。

三つの主郭、縦方向に掘った堅堀、通り道を狭める土塁、井戸跡などが山中に残る。「防衛だけなら、より高く急傾斜な山が東側にある。大和の物流を握る泉津を押さえる目的があったと考えられる」。岩井さんは、大和(奈

大和の物流拠点にらみ

やましろ遺産
を行く

良(県)に相楽地域も含む地域での戦略的な役割が強く感じられるという。守る会は、城跡から、鐘の音やのろしがどこまで伝わるかといったユニークな実験にも取り組む。

本格的な発掘は行われていないが、木津川市教委の近年の調査で深いV字型の溝や、時代をさかのぼる別の遺跡の存在も明らかになった。

発見を待つ謎が、まだまだ眠っている地だ。

(石崎立矢)

山城地域では豊かな歴史と文化が、人々の生活の中で、また産業の発展とともに受け継がれてきました。史跡、文化財をはじめ身近にある地域の「遺産」を訪ね、その魅力を再発見します。(隔週水曜に掲載予定)

高価買取!
京阪くずは駅前
(有)橋本質店
TEL:074(959)1234

南部支社
〒613-0033
久御山町林高
代表 0774(45)
FAX 0774(45)
nanbu@mb
oto-np.co.jp
宮田切・学研